日本鋳造

川崎工場で大型加工機増強

納期短縮、コスト削減

日本鋳造(社長・鷲尾勝氏)は川崎工場(川崎市川崎区)でNC横中ぐり盤を1台増設し、7月から本稼働させる。納期短縮とコスト削減を狙いに、大型加工機の増強による機械加工の内製化を進めており、川崎工場では昨年度の2台に続き3台目の増強になる。一連の投資額は約1億5千万円。機械加工の生産性向上は、中期的な半導体製造装置関連需要の成長に対応する体制を整える意味もある。

川崎工場では昨年度はNCターニング加工機、NC横中ぐり盤を増強した。NCターニング加工機は半導体関連(研磨定盤)、NC横中ぐり盤は建機関連(シュー)の加工に主に活用している。このほど導入した横中ぐり盤は半導体関連(フレーム)の加工に主に活用する。6月中に試運転を行い、7月から本稼働させる。